

## 【学生による ESD 学習支援】

### 奈良市富雄第三小中学校 第 10 回ユネスコ委員会 支援報告書

英語教育専修 修士 2 回生 糸 綾香

社会科教育専修 1 回生 足立 繁郁

1. 実施日 平成 31 年 2 月 6 日 (水)
2. 場所 奈良市富雄第三小中学校
3. 参加者 糸綾香 (大学院生)、足立繁郁 (学部生)  
奈良市富雄第三小中学校 教員、児童 複数名
4. 活動支援内容

平成 31 年 2 月 6 日、奈良市富雄第三小中学校にて第 10 回ユネスコ委員会が行われた。今回は国際交流班とビオトープ調査班とで分かれ、活動を行った。国際交流班では、3 月に行われるオーストラリアの姉妹校への訪問に向けて、全校的な取り組みについての準備を話し合った。ビオトープ調査班では、ビオトープの観察や整備を行い、その後今年度の活動を振り返り、これからビオトープをどう良くしていきたいかについて考えた。



ビオトープを観察する様子

今回の活動支援より、以下の 2 点について考えた。第 1 にビオトープの変化について、第 2 にきっかけを与えることについてだ。

第 1 に、ビオトープの変化についてである。私は、2018 年 7 月 4 日に初めてユネスコ委員会の支援をさせていただいた。継続的に関わることでビオトープの変化に気づき、支援の幅が広がると思い、活動してきた。継続的な支援を行う中で、底が見えないほど濁っていたビオトープの水質がきれいになっていくなど、ビオトープの変化を感じることができた。これは子どもたちがどうすればビオトープが良くなるか考えて、活動した結果である。子どもたちにどうすれば今よりよくなるのか考えさせるには、現状を把握した上で、継続的な活動で変化していく様子に気づかせ、やりがいを感じてもらうことが大切だと思った。

第 2 にきっかけを与えることについてである。国際交流班は、3 月に行われる姉妹校訪問に向けて、全校的に取り組める交流の内容について話し合いを行った。委員会担当の先生から説明があり、話し合いを始めたのだが、なかなか意見が出なかった。子どもたちは学年が違うことへの遠慮、恥ずかしさ、もしくは何を話せばいいかわからないなど様々な心境でいたと思う。私はサポーターとしてどこまで介入していいか最初は躊躇してしまったのだが、学校について質問してみたり、手の空いている生徒に書記をお願いしたりと少しずつ話しかけることで、子どもたちも口を開き始め話し合いを行うことができた。予想もしなかったような意見も出て、充実したものになったように思う。子どもたちには「できない」と決めつけ、話し合いのすべてに介入するのではなく、きっかけさえ与えれば子どもたちだけでできる、きっかけづくりをするのがサポーターの仕事なのだと感じた。



国際交流班の話し合い

以上のことを今回の支援を通して感じる事ができた。これからも継続して支援を行う中で、子どもたちとの関わり方について学んでいきたい。